WASON
HQ
1104
J74+
Dec. 1890
no. 242

女學雜誌

明治二十三年十二月六日發行
第二百四十二號
一冊六錢。 每土曜日發兌

本號には月一回の附錄女學第一冊を初めて附錄とし直得意の諸君に無代呈上す、、、、、、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

雜　女　學　誌

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 242.　December, 6th.　1890.

EDITORIAL :—Effect of the Discourse against *Licensed Prostitution.*

WORDS AND DEEDS :—The Ideal is Real. Retributions of Right and Wrong. Pleasure and Duty.

MISCELLANEOUS :—What girls should know for governing their Virtue. (Matsumura.) Love is essential to the Literati. (Unposhi.) The Parliament was from twenty years ago.

HOUSEHOLD SCIENCE :—What Wives ought to know. (Nakashima Toshiko). A fireside talk (Sanka Sekio.)

CHILDREN'S COLUMN :—"A Wise Rabitt." (Fumiko)

LITERATURE :—Japanese Poem.

NOVEL :—Danchō. miss. Misawo.

CRITICAL NOTES :—"Shinri" "Japanese Literatue," "Nihon Jin."

HUMOUROUS :—

CONTRIBUTED ARTICLES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百四十二號目次

社説　言行　雜録　家政　兒藍　小説　文學　理學　批評　隨感　笑草　問答　寄書　時事　新誌　女報　週報　統計　物價

廢娼論の影響
理想は實想●善惡の應報●眞理漸成長●樂しみさ務
女子德を修むるの心得(松村介石)●文人は愛なくんば不可
なり(雲峯子)●重なる魚類卵の生み時●國會は廿二年前に
もあり
夫人の心得(中島さし子)●古衣にて洋服を仕立る法●爐邊
雜話(山下石翁)
小賢しき兎の話し(ふみ子)
斷腸(みさを)
和歌首●皇子皇女御出家の事(新井白石)
風船のはなし(吉田伸子)
眞理●日本文學史●紅鹿子●日本人●新聞流轉●經濟雜誌
●嵯峨の屋主人●吾嬬布里
謀士天下に充つ●雲鬢霞裙も亦功ある乎
周公は師を知らずさいふ(ふみ子)
婦人の姓氏の事(ふみ子)
學びの庭に故郷を思ふて(鈴木げん子)

附錄女學(第一冊)　本號附錄 定價四錢

廢娼建議の文　小島官吾
文學會の序(英文)　若松賤子
小夜中　磯貝雲峯

右本號に附錄とし直得意の諸君に呈す。廢娼建議文は周密精細にして且つ文章雄麗鬱勃、廢娼論文數多あるうち、未だ如此く平易にして且つ感深き者あるを見ず。若松女史の英文は或文學會年年の祝詞にして二年前の舊作に係ると雖ども、爾來居留人の間に嘖々として評判極めて高きものなれば、所望の人多きにより玆に掲げ、女學生英文の一標本とす。雲峯子の新躰詩は自から一家獨得の妙あり、此篇は分けて意を凝め、感慨を溢らしたれば、朗吟の際涙禁じがたきを覺ゆ。

東京廢娼運動費義捐

六圓	東京赤城元町	小島きよ
二圓	東京麻布	安藤太郎
一圓	上州沼田	石井ふじ
一圓	盤城宮村	大泉みどり
一圓	武州八王子	靑木たけ
一圓	越前敦賀	信徒有志者

計　拾貳圓

(正誤)前號掲載の飯野、島田、湯淺、巖本等の義捐金は東京廢娼會へ向つて直ちに義捐したるものゆへ誤として此處には除く。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百四十二號 明治二十三年十二月六日發兌

社說

廢娼論の影響

若し吾人を以て狂へりと爲さば、廢娼論の故を以て狂へりと爲されんと、寧しろ喜びとする所ろなり。吾人が廢娼論に熱中するの理何すれぞ他あらん。之なくんば、敎育行はれず、ホーム淸まらず、風儀改まらず、惣ての社會改良策みな無効に歸すべきことを確信するを以ての故なり。世上何如に廢娼論を遇するかを見て、目下の社會道德何如なるやを察知することを得べし。人、何如に廢娼論に贊成するやを見て、其人の道念埋想何如に淸濁高低あるやを察知することを得べし。廢娼論は吾黨に於ける一の試驗石なり。

或人は曰く、藝妓を斥ぞけずんばある可らず、蓄妾を廢せずんばある可らず、酒煙草を禁ぜずんばある可らず、惡風を矯正せずんばある可らず、此等の事先づ行はれて而して后ち廢娼斷行することを得べし、廢娼論に先づ熱中するは、徒らに空想の爲めに狂奔するに均しと。吾人如此き論辨を聞く每に、未だ嘗て慷歎腸を斷つ思ひなくんばあらず。夫れ、藝娼妓を斥ぞけ、酒煙草を禁じ、惣ての惡風を漸次に矯正せんとするなどの企望は、宛がら密賣淫を滅ぜんとするの盡力と同格同列に入るべきの者なり。其事固より宜し。吾人必らずや亦た之に相應の盡力を與へ、敢て人后に立たざらんことを欲すと云へども、所云る公娼を禁ずるの一事に至つては、斯る幾多の矯風事業中一きは立まさりたるものにして、即はち惡の一等超出せる者を先づ除去するの事たり。前述せる彼此の弊害は云はゞ先づ秘密境に行はるゝものにして、公娼は即はち白日堂々として横行するもの也。先づ此を絕たずんば他の伴隨せる惡弊を除去することは頗ぶる難し。敵を擊たんには先づ中軍を目がけ、人を射んとするには先づ馬を射ると云へり、公娼の城を落すは、敵軍の根を拔くなり、日本矯風事業の大經綸は、先づ此の一角より着手せずんばある可らず。

人は云はく、風儀改めずんばある可らずと。然ども公けに姦淫を認許するの土地に於て何如にして風儀を善導すべき乎、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

公娼あらん限りは人決して姦淫を惡むとあるなし、姦淫を惡まずして風儀を善くせんと思ふは、惡を惡とせずして惡を制せんとするに均し、何の効あらんや。試みに見よ、廢娼論勃興してより后ち、風儀何如ほどに清まりしぞ。憲法發布式に横行したる娼妓は、國會祭に於て出歩るきを禁ぜられ、總理大臣を遊廓の開業式に招待せんとし携あかりしものも、國會議員に一本の手紙を送りて叱らるゝとゝなり、中以上の遊び人一年のうちに驚ろくべく減じ、高帽黒髯を着けて揚々遊興するものは俄かに恐ぢ懼れ、妓樓之が爲めに身代を限り、貸本大不融通となりたるの結果は、たゞに野に叫びたる百十義人の聲ありしが爲めのみにあらずや。廢娼の論出ざりし以前は、百鬼白日に横行せり、今ま旭日微しく光を發てば、魑魅魍魎乍ちにして斯く迄に遁易せり。此上公娼全廢を斷行せば、風儀何如ほどに頓變すべきか、吾人確として此の理想を保ち、勇意勃々として禁じがたし、同聲何のゆへに更に廢娼論に熱々たらざる乎、密かに怪訝に堪へず。

青年の教育は極めて大切なるもの也、左れど都門に妓樓妓館ありて之を放埒に誘はんに、教師は之を何如にすべき。よし遊廓は町はづれに在りて直ちに之を誘わずとするも、惡風自づから流れて、文章となり、談話となり、風習となりて、之を迷はさんとす、此時に當りては、教師が一二の說法は殆んど無効に歸せんとす。左れば苟くも教育に從事せんほどの者は苟且にも廢娼論に冷淡なるとある可らず。」又、男女の間柄を清くし、室家の樂しみを潔ぎよくせんとせば、是非とも姦淫の惡德たるとを確かめずんばある可らず、鷄の雄が五六羽の雌を引つれ而もて仲好きが如きホームは、眞實の人情に得て望むべきとにあらず。況して鷄すら五六羽の中み分けて一雌を愛したゞ之とのみ眞正の團欒を爲すゐ、安くんぞ人にして姦淫の内に潔白高尚の愛を結ぶとを得べき。左れば、ホームを美しくせんとには、先づ一夫一婦の制を斷守せずんばある可らず、一夫一婦の制を確かにせんとせば、先づ公娼を全廢せずんばある可らず、公娼を公けに存してホームの整はんとを望は、惡疫大流行の地に家族を安んぜんとするに似たり、偶々一二の安き者はありと云ど、安心決して久しきに續く者にはあらざる也。」又、男女の德を一つにし、其地位を同等にし、蠻野の間だに行はるゝが如き、男女間の大ひある懸隔を取除かんとを熱望せんほどのものは、一日として公娼を措とを安んじ居べきにあらず。公娼は政府の法律により女子が男

子の玩弄物とあるとは官許したるもの也。而して國會の制度既に行はれ從前既定の法律を國會を通し引つぎたるの今日に於ては、吾等が此の公娼制度を承引し置くは、吾々人民が一同協賛の上、吾々の姉妹、吾々の母、吾々の娘を、男子が玩弄物として差支なき所以の法理を、公認し置くに異ならず。更に奇怪なるは、男女同等を心掛とする女性の先輩も、其如此く酷待歡遇せらるゝことを甘しとし、恬として顧みず、而して口に切に女權々々と言ものに似たり、何等の大矛盾ぞ。

夫れ、公娼の影響する所ろ、如此く廣く且つ深き也、苟くも社會改良に熱心ならんもの、苟くも人の自由權を重んぜんもの、苟くも教育に盡力せんもの、苟くもホームを清くせんと心掛るもの、苟くも女權論に執心するもの等は、孰れも皆な率先熱狂して、廢娼論に加擔し、且盡力すべき筈のものにあらずや。然るに奇怪なるは、牧師僧侶教師輩にてすら之を冷々視するもの少なからず、中には寒笑して之に反對を試みんとするものすらあり。太甚しきは「ホームを美しくせよ」「女權を高くせよ」を叫ぶ所ろのものにして、反つて廢娼論を不可とするものすらあり、吾人は慷慨して國家の爲に涙を揮はずんばあらず。去れよ！去れよ！僞善の徒。汝等が矯風論は一種の廣告のみ、汝等が理想は架空の妄想のみ、汝等が道念は倫理書の版行のみ。吾人は廢娼論によつて世情を卜し、又廢娼論によつて人品を卜す、廢娼論に熱心ならざらんほどの者は、到底提携して、大道を語るに足らず。

但し中には政事家めかし、時機々々と辨ずるものあり。大毒害を滅して小毒害に移し、公娼を廢して暫らく密娼たらしむるに、何の日か尚早きとあらん、如此き尚早論は長なへに尚早論なるべし。但し吾人は生ぬるき贊成者を懇望するものにあらず、只だ眞實の人にして未だ之に心付かざるの人多きに殘念せずんばあらず。公娼全廢は遠からず必らずや行はるべし、若し此事行れずんば、吾人は日本國濟度の爲に絕望すべし。左れど眞理は必らず徹す、遠からずして必らずや行はるべし。吾人は確信して毫も疑ふとなく、たとひ今ま滿天下に一人して之を叫ぶとも、尙ほ確信して沮喪するとなけん、況んやすでに幾多の反響幾多の同志者あるをや、遠からず必らずや成るべし。但だ其成るの遲きと速きとは、吾黨の熱心の強きと弱きとに關するとを覺悟す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

言行

○理想は實想　ジヨン、ラスキン曰はく、歌よみ又は畫かく人が、心に思ふよしを書現はすを理想とし、理想は實想ならぬ如く持あす。されど、人苟くも之を見ず若くは信仰によりてだに之を見るとなからんには、嘗て能く思ふとあるなし、故に理想は亦た一の實想なり。

○善悪の應報　氷川大明神の神託と稱ふるものに云く、黒く穢なき心には悪しく、爲しがたきもの纏ふ、淸く直ぐなる心には、寶祿日出度事まとふ。

○眞理漸成長　詩人シェレーの詩に、思想の上に思想積み重なり大ひなる眞理遂に開放し、國民四方に反響す。

○信心の歩み　信者は何の優れるとあらん、信者の爲すほどの事はわれ常に爲す也、われは盜まざる也、欺かざる也とは、毎度聞く所ろの嘲けりなれ。左れど、信者は自から淸しとせず自から濁れりと覺悟して日に／＼進み、世の義人は自から高しとし淸しと誇りて遂に進まず、此れ大ひなる差別なるべし。井上正鐵翁よく此類の情を寫して云はく、信心得道と申す事は、眞の心にあり申候種を頂だき申候事にて、未だ眞の心になり候と申事にて御坐なく候、まことの心を得る道と申す事にて候、段々聽聞をいたし修行候へば、眞の心にあれる種を戴だき申候とに候ゆゑ、持前迷ひの心あるゆゑ、わが持前が出るなり、然れども信心得道の上からは、必らず後悔の心出てゝ我があしきと思ふものなり、故に修行さへなせば追々信の心にあり、悪しき行、悪しき思ひは失せるもの也、之をあやまちて改めると申なり。信心得道せぬうちは、後悔の心なく、我思ひ善しと思ふゆゑ、悪しき事だん／＼募るものなり。日々つのると薄らぐとは大ひなる違ひなり。故に信心得道のものは、年月を經て迷ひの心うせ、老年に至りて信の心つよくなる故、自づから神明の徳を得るもの也。又信心なきものは、悪くともあしきとも思はず候まゝ、老年に至り段々迷ひてくらくなり、欲のみつのりて愚痴になり、人に捨らるゝもの也。老て愚かになり候と、老て明らかにあり候とは、天地の違ひなるべし、と。

樂しみと務

（カント倫理問答）

敎師問。アナタ方に問はん、世の中にてアナタ方の最大目的とし、又唯一の目的となさることは、何事です。

生徒　沈默。

敎師　即はち、アナタ方の望み通り、思ふ通りに、いつも万事が成効することでありましやう。然し、かゝる事が實際ありましたらば、アナタ方は其心持を如何ある有樣であるとお答へです。

生徒　尙沈默。

敎師　即はち之が幸福であると申すのです。然し、十分の幸福を得て、世上何事でも思ふやうになりましたらば、アナタ方は、唯一人で此幸福を取りますか。

生徒答　いゝえ、人々に分け與へて、共與に樂しみます。

敎師　さよう。アナタ方は既に善いお心掛である。然し其上亦善い判斷があるや無きやをお問申したい。アナタ方は、怠け者に軟かき床を與へ、酒のみに酒を與へ、惡人に更に惡事の便りを與へませうか。

生徒答　イヱ決して左樣の事は致しません。

敎師　左樣でせう。然らば、アナタ方は十分の幸福を受け何事でも思ふやうに成り、亦其幸福を人々に分け與へようと心掛けなさるゝ時でも、其幸福を濫りに與へず、之を受るに相應したるものにのみ與へなさるのである。然らば翻つて、抑そもアナタ方は其幸福を自ら受けるに相應して居るか居らざるかを、自ら問はるゝ筈でありませう。

生徒　まことに左樣です。

善からざる人の心に幸福なし

雜錄

女子德を脩るの心得

松村介石

第一種　脩德を好まぬ人（下）

又彼等は外に在ては天使なりと雖も、內に在ては惡魔たり。彼等は常に慈愛を說く。然れども婢僕に對して慈惠少く。夫に對して柔順ならず。父母に對しては荒々しきを通例とす。彼

等は一見寔に美はし。然れども漸く假面を脫し來れば。其醜きを云はん方なし。初めは香吻甘露滿ち。終りは毒舌火焰を吐く。初めは錦繡見るも眩目し。終りは裸躰目もあてられず。よく〳〵の鈍女か但しは無智の少女ならずば。容易に之を看破して。私に爪彈擯斥す。然れども彼等は仲々の曲物にして。所謂る多くは力量家なれば。若夫れ看破爪彈するものあるを知らんか。則ち執念く之を怨みて。百方讒害を構造し。只管復讐を是れ謀る。こゝを以て人皆之を恐怖て。敢て白地には爪彈し得ず。多くは敬して之を遠け。聞過。見過。知ぬまねして彼等に接す。於此乎。彼等は益々增長して。畢に公私の間に跳梁し。衆人を礙かせ。善業を傷け。而して百事百物を打壞し去る。茲に一例を示さんに。或處の基督教會に周ねく此種の人物ありけり。彼れ能く働き。能く盡す。然れども元來彼れの目的たるや。人の上に立て口をきゝ。己が名譽を博せんと欲するに過ぎざりし。以此兎角に擅橫の威を振ひ。言行自から傲慢に流れ。竟に衆人の礙石となりける。於此乎。友人あり。往て彼に忠告して。其の悔改を促がせしに。彼れ之を聞て。大に悲しみ。直に其友の前に伏して。悔悟の祈禱を恭しく捧げ。且つ其友人にも祈禱を依賴し。夕に及んでは則祈禱會の席に出で。兄弟姉妹の前に立ち。淚を振て先非を懺悔し。終に號泣悲禱せり。於此乎。人皆之を見て大に喜び。滿堂一致の感謝會をなし。皆相共に語て曰く。慶すべし。祝すべし。彼れ始めて罪を悔ひたり。これより必ず一變せん。あな賴母敷哉と。而して皆々欣然として歸りぬ。然るに如何。是れ亦た彼れが幻術なりしよ。彼れは此友人の忠告に依り。始めて己が變皮の破れたるを知り。かくてはならじと。大に駭き。すばやく懺悔の假面を被り。更に新なる幻術に出で。謙遜るよとみせかけ。乃ち人をスクヒ投げにあはせたるにてありし。何となれば。彼れの懺悔は所謂百葉のみの無花果とあり。畢に其實を結ぶとなし。間もなく。以前の惡癖出で來て。倍々衆人を躓かせたればなり。又かの聖書なるパリサイの人の如はき。同じく此種の中に在るべし。彼等は僞善に滿ち〳〵たりし。而して基督を嫉みて措かず。基督が溫柔以て諭し玉へば。則ち侮りて彼を愚弄し。權威以て敎へ玉へば。則ち惡んで陷れんと欲し。嚴正以て責め玉へば。則ち怒て彼を怒せり。此他演劇小說なる。彼忠臣を讒し。達人を害し。是を以て非となし。非を以て是となし。惡逆無道

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

を逞ふする。所謂る佞物の類の如きは。其男たると女たるとを問はず。即ち此黨の張本たるべし。あなおそろしや。怖い哉。思ふに此種の人物をして。我此言を聞かしめなば。又必ず邪念を推して。我寐首をや竊ふらん。蓋し彼等は反省以て改むるを知らず。唯り忠言の耳に逆ふるを感ずればなり」。サテかく書き去り。書き來れば。讀者は既に我所謂第一種類の人物とは如何なるものなるかを推察せられたらん。即ち尚ほ一言にて之を括せば。我所謂る第一種類の人物とは。心更に修德を好まず。善に背いて惡を喜び。光を避けて暗に就き。忠を聞て怒り。美を見て妬み。本心痺れ。根性曲り。專ら私利を是れ謀り。偏に讒害を是れ搆へ。信なく義なく。廉耻なく。好言令色。反覆常なく而して其激するに當ては。人の己を看破するあるをも厭はず。友の我を諫戒するあるをも顧みず。毒を喰はゞ皿までとなり。有らん限りの惡計を運し。死もの狂ひに罪業を働て。而して純然無悔の惡鬼となる。之を第一種の人物とす。

記者曰此等の文を讀み來れば。徒らに惡まれ口をきゝたるものゝ如し。蓋し健全なるものは醫士の扶救を要めず。唯だ疾病あるものゝみ之を要む。余が此第一種及び第二種を畫くゆえんのものは。則第三種第四種に十分力を入れんが爲めなり。余れ豈惡言を好まんや。之を云ふ實に德育の源なりと信ずればなり

文人は愛なくんば不可也

雲峯子

余は愛情の天賦の美性なるを信ずるが故に決して之を卑しめず、卑めざるが故に強ひて之を絶てと云はず、されど東洋に古來云ひ傳ふる所謂戀なるものに至つては其宜しきを見ず、何となれば必らず下等の情慾の伴ふを見ればなり、是豈眞誠の愛情なりとせんや、或人嘗て外國に遊學す、止る月日の長かりしかば某家の令孃に心をかけ、遂に氣も狂ひたりけるか、卑しき心を起しけりとなん、某新聞に此事を記して（日本の戀）と賤しめて云へり、日本の戀多くは斯るものなりしが故に斯く云はれしも是非なし、今より後人智進み、世開けなば自ら斯る戀は絶え、西洋の所謂「ラヴ」なるものあらはれん、吾人は之を眞誠の愛情と云ふ、此愛情を知るものに非ずんば、詩人にまれ、小說家にまれ、決して妙作を爲す能はず、偶ま世に稱譽せらるゝあるも僅かに數日若くは數十日の光榮を擅にするのみ、日轉じ、月變れば亦寂として口にするものたになかるべし、此に於て余は見る、一方に於ては愛情を賤しめ、ホームを輕んじ、短衣蓬髮、以て意氣揚々たるの徒遂に眞の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文人たる能はざると他に於ては玉帳金閨に出入して一夜の快樂を貪り、卑賤の愛情を喜ぶが如き輩亦遂に大家たる能はざる事を、さればトマスグレーが年壯にして氣若かりし頃呵成せる詩は傑作の名萬世に高きも、老年に至つて遂に成す事なくして幾多の歲月を費せしは其情人を得ずして感情の源泉たる愛情の枯死せしが爲めなりと云ふも一理なしと云ふべからず、余は我國文人雅客が眞に傑作と云ふべきものを出すの少なかりし所以のもの職として眞誠の愛情を知らざりしが故なりと思ふ、余嘗て某文人を訪ふ、其人曰く我國古來の著作中最も傑作と云ふべきは源氏物語なるべし、其愛情を寫せる樣西洋小說の妙處佳境に相似たりと、是當れる言ならん、余は信ず、紫式部は眞に經驗せる所を敘述せしが故に彼の作を爲せしならんと、勿論所謂東洋の戀なる下賤の節も多くなりと云へども亦後人の企て及ばざる妙處の存するなるべし、豈大著傑作偶然にして出でんや、此に於て知るべし、眞誠の愛情を知らぬ文人は玉の盃の底なきが如きぞ。

江秋夕　　星溪居士

夕日かげ殘るもさむしうつら鳴く眞野の入江の秋の夕ぐれ

閑居秋雨

なか〳〵に音なきよりも淋しきは靜けき窓の秋の村雨

重なる魚類卵の産み時

魚名	月數
さめ	六、七、八
ゑい	六、七、八
すゞき	一、二、三
いしなぎ	五、六、七
はた	四、五、六
むつ	二、三、四
いさより	五、六、七
いさき	五、六、七
たかべ	三、四、五
たい	五、六、七、八
くろだい	六、七、八
いしもち	六、七、八
にべ	一、二、三
かちき	六、七、八
たちのうを	七、八、九
あぢ	四、五、六
かます	五、六、七
ばら	一、二、三
めなだ	十、十一、十二
たら	一二、十二
いかなご	四、五、六
ひらめ	五、六、七
まがれい	五、六、七
なまづ	五、六、七
ゑそ	四、五、六
こい	五、六、七
ふな	五、六、七
さぢやう	七、八、九
さんま	九、十、十一
さより	四、五、六
さびうを	四、五、六
いなわ	十、十一、十二
さけ	十、十一、十二
ます	十、十一、十二
あゆ	八、九、十
しらうを	四、五
ひしこ	四、五、六
このしろ	四、五、六
にしん	四、五、六
いわし	四、五、六
うるめいわし	四、五、六
うなき	八、九、十
はも	四、五、六
あなこ	四、五、六
たこ	六、七、八
むろあぢ	四、五、六
ぶり	一、二、三
まながつを	六、七、八
しいら	六、七、八
さば	四、五、六
かつを	六、七、八
しび	六、七、八
そうだかつを	六、七、八
さわら	五、六、七
あまだい	五、六、七
はたはた	一、十一、十二
あんこう	三、四、五
あいなめ	一、二、三
かさご	一、二、三
こち	四、五、六
ほうぼう	四、五、六
いひだこ	三、四、五
やりいか	四、五、六
するめいか	八、九、十
かういか	四、五、六
あふりいか	四、五、六
なかにし	四、五、六
あかにし	四、五、六
ばい	四、五、六
さゞゑ	七、八、九
あわび	十、十一、十二
さこぶし	七、八、九
おほのがい	六、七、八
まてがい	六、七、八
ばかゞい	四、五、六
しほふき	四、五、六
うばがい	四、五、六
はまぐり	四、五、六
あさり	四、五、六
さりがい	五、六、七
あかゞい	五、六、七
さるぼう	五、六、七
いがい	五、六、七
あこやがい	五、六、七
ほたてがい	四、五、六
いたやがい	一、十一、十二
かき	五、六、七
いせゑび	六、七、八
くるまゑび	四、五、六
なまこ	三、四、五

國會は廿二年前にもあり

井上二郎

貴族院衆議院去二十九日開かる、國會と云ふもの此度初めて出來にけりと思ふは僻事なり。二十四年の昔し、慶應三年九月山内容堂公が、後藤象二郎外三氏を將軍に遣はし、大政奉還を勸めたるの大主旨は、博く天下の公議を採り國是を決定すべしとの事なりけり。翌る明治元年三月天皇紫宸殿に御し、五條の契約を勅らせ玉ふ、第一條は即はち廣く會議を興し万機公論に決すべしとの御事なり。此に於て國會の芽すでに萌しぬ。其四月には、議政局を設け、上下の二局に分ち宛がら上院下院の如くす、當時の政體書に云く、各府藩縣皆な貢士を出し議員とす議事の制を立るは輿論公議を執る所以なり、又諸官は四年を以て交代し公撰入札の法を用ゆと。則はち翌る二年三月公議所を開き、議員三百七十六人を集めて會議す、森有禮氏の廢刀の議、津田眞道氏の賣奴を禁ずる議、加藤弘之氏の穢多非人の稱を廢するの議など皆此處にて決せられぬ。公議所一變して集議院となり、再變して左院となり、其后ち明治六年に内閣二つに分れ、板垣氏等の民撰議院論あり、十四年に國會開設の勅諭ありて遂に今日に成就せり。

家政

夫人の心得（三）

中島俊子

衣服は

常なりとて、きたなきを着るなかれ。他出なりとて、目立程うるはしきを用ひざるをよしと爲す。他出のときは、これ〳〵と定め置きて、今や出んとするとき、時計の針に催促せられつゝ、簞笥をまぜかへす程不愉快のものは非るへし。おつとの衣服は、他より歸り來て方付る時、次に出るときこのまゝにて差支なきか、如何を、肌衣より表衣にいたるまで、氣をつけ、これを一纒めに爲しおくべし。四時のかはり目には、もつともよく意を用ひ置くへし、今やいでんとするとき、あれ牡丹、あれ綻びと、騒がぬこそ、肝要なれ。

規律

日本の風習一家の規律をたて置くは、望んで行ふべからずさ。れど規律の守り得らるだけは、守るべし。一週間の日を割り、何曜日には何〳〵を爲し、何の日には、なにと豫め定めおくと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

きは、忙しき中にも、閑暇を得らるなり。このひまには、曾て身の學窓にをりし如く、何にても學びの事に從事すべし。まなぶべきことは、終生身に追隨しあるものと覺悟すべし。

歸り來りしとき

何人と雖も、家外の漠然たる空氣より、家内の鬱乎たる空氣に入來りては、何となく鬱陶しき心地するが、當然なるに、さなくて夏なれば炎熱燒くが如き家外より、清涼なる風窓にいり來り、冬あれば北風情なきの家外より、紅爐暖かきの室にいり來りしときの心地は實に無量の好味あれば、夫の歸る時刻分りなば、仕かけたる用事をかた付、席を淸めて待つべし、働き振を見せがしに、ひろげ散らして、夏はあつくろしく、冬は茶鼎昔を絶ち、紅爐烏に歸する程、殺風景あるものは非ず。

古衣にて洋服を仕立る方

在來の父兄の古衣を以て、男の子の洋服を仕立る方法

丈　二尺七寸五分　袖　壹尺四寸五分

襟　二尺四寸　をくび　三尺三寸

右の古衣にて八九歳と五六歳位との上下二組を製する順序左の如し、但半ヅボンありと知るべし、三尺七寸五分の身ごろ二まいをかさね、長くひらきのばし七尺五寸となし、袖も身ごろと同じくのばし、襟とをくびはそのまゝかさねて裁つ事、先つ八九歳の小兒の衣服より裁ち始むるには、第一に兩まへをとり、第二に兩袖をとり、第三に後ろをとり、第四にヅボンのまへはゝをとり、第五にヅボンのうしろはゝをとるべし。次に五六歳の小兒の衣服を裁つには、第一にうしろはゝをとり、第二に兩まへをとる事、但し壹尺五寸のゝこり切れあり、第三に兩袖をとり、第四にヅボンの後ろはゝをとり、第五にヅボンの後ろはゝを裁ち、又之りにて後ろと襟をとりをくびにてチヨッキを裁つもよろし。

右新潟縣尋常師範學校女子部舍監町田女史の趣向にして同縣有志敎育會雜誌に見ゆ。

立秋　北里拳石

難波かたあしまに見ゆるいさり火の光すゞしき秋は來にけり

露

此朝け垣根の萩も露こめてこほるゝ露の音の淋しさ

爐邊雜話

山下石翁

ウソの教師は父母なり

ア、、亦來たかへ、留守と言つてお呉れ。子供トーさんと呼ぶ、コレツ、馬鹿ツ、留守つて言つてるノニ。

人に會へぬ用があるのならば、其譯を言ふて斷はるが宜しい。偶然に尋ねて來た人に必らず會ねば成らぬと云ふ義務は有ません。寧しろ在躰に辨じて斷つた方が正直で、且つ人間の爲すべき義務です。良人が出れぬときは、夫こそ奥さまが出て、鄭寧に分を言ふてお斷わりになるが宜しい。現在子供にウソを言ふとを敎へて置て、他日ウソは言はぬものぞと、言きかすればとて、何の効にも成ません。

言ふに彌増す

アナタがそうお言ひだらうと私しが思ふなぞと、お思ひては困りますよ、決して左樣では無インです、又かう〳〵私しが思ふて居るとお思ひでは尚更困ります、アノ人は斯う思召すんでせう、アー思し召すんでせう、イエそうではないの。

いつも斯樣な先こぐりのお話しが女には多い、疑を含んだ辨解と、余計おむだ口の辨解とは、辨解が反つて物事を六かしくします。最上の辨解は默するに在り。と言升。

兒籃

ふみ子

小賢しき兎のはなし

皆さん能うく聽て頂戴よ、今私しが、皆さんの爲になる——そして面白いおはなしを爲升から。皆さんは、尻り馬に乘るといふ事を知らなくつて——尻り馬ッ……ソラ私し達でも能く覺へのあるとですが、誰でも子供の時分には、兎角大人の話しに、口を出したがるものです。夫れは誠によくないとで例へばお父さんやお母さんが、大事の御相談をなすつたり、又はお兄さんやお姉さんが、お父さんに何かいひ聞かされて入らしッたり、おさんが不調法をして、お母さんにお叱られ申て居る時などに、子供の僻に、傍から余計な口をきゐて、小ましやくれたとを、いふたりするは、誠に惡いとで……そういふ子はいつも人に憎れたり、イヂめられたりするものです。私は今其事に就て、小賢しい兎のおはなしをして、皆さんに聞せ升う。

皆さんも知つて居る通り、虎といふものは、大變に強いものです、獅子を除けては獸の中に、虎ほど強いものはないとい

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ふ位……其虎でも、年と病には勝てぬものと見へ、或虎が老ぼれた上げ句、病ひに罹り、全く氣力盡きて、ベタ〳〵になり、道傍に倒れて居升た、スルト其處へ狼が出て來て、日外の怨みを晴すのだつて、さん〴〵に咬み升た、それが濟むと又大きな牛が駈て來て、我兒の讐だ覺悟せよッて、太い逞しい角で虎の横腹を突き升た、けれ共虎は、どうすることも出來升んカラ只手足をもがいて、ウー〳〵と、うなつて計り居り升た。これを見て居た一匹の兎が、さて〳〵虎公は思の外弱い奴じやあの樣子では、どんなにしても、罰を當る氣遣ひはない、まて〳〵私もいつぞや、彼めに追掛られた事がある、今日ぞ怨の報ひ時よし〳〵一つ蹴て遣うと、其小さな足でゑらそうに虎の顔を蹴升た。スルトサア大變―虎は遽に猛り出し升た。恰も今迄死にかゝつて居た虎が、急に大な眼をむき出し「叱ッ小賢しい兎め、小力ある奴等の侮りは忍ども出來るが、汝の樣な小輩に蹴れてたまる者か假令今日のおれでも、それては虎の一分が立ぬ、サア是でもマダ蹴かと云さま、只一噛に兎を嚙殺たと云ことです。ドウです皆さん、能うく氣を注けないと、此通り尻り馬から、命を殞すとがあり升ぞ。

小説

斷腸　上

みさを

昔は白樂天歌ひけらく人間女の身となる勿れ、百年の苦樂は他人によると、眞なる哉、妾の身の上を云ひ置けるかと思はれて悲しさやるかたなし、嗚呼若妾の如き境界を踏まずんば白氏の云へる意も遂ひに悟り得まじ、人世何事か意の如くならん、されど斯るうきめを見るものやある、今宵良人は歸り玉ふまじ、母上ははや床に入り給ひけん、咳嗽の聲やみぬ、稚兒も乳母の側らにスヤ〳〵と打睡れり、イザ今宵は一筆書き置かん。

妾の家は代々加州金澤の藩士なりけり、明治の聖世となり變り、四民職に安んずる時とありぬ、妾の父上は縣廳の官吏なりけるが今を距る事七年前内務省の某官に轉任し、都に上りけり、妾其時十四歳なりしが年に増して大人しと人々にほめられぬ、父母と共に故國にありし頃十三歳にて小學校を終りぬ、田舍とてよき女學校の設なかりければ父は師を家に招聘

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第二百四十二號附錄（明治廿三年十二月六日發行）

歲暮年玉無代呈上の工夫

此度女學雜誌改進いたし新規注文の花客夥しきに付少さか祝意と禮謝の念とを表せん爲め、左の書籍を無代にて呈上す。

十二月廿日迄に此切符封入、注文前金送達の向へは

十五冊前金の口へ　猶こ鼠。つれ〴〵草講義。植物學講義。本村鐙子小傳。のうち隨意に一冊づゝ。又は、公娼可滅。妓樓全廢。廢娼演說。のうち隨意に二冊づつ無代呈上の事

半年前金の口へ　鈴木弘恭氏講述文法口授。二百五十頁の婚姻論。

一年前金の口へ　いづれにても一冊呈上。二百人一首講義第三版新調のもの早々呈上の事。

以后直注文の人は毎月一冊の附錄を無代にて貰ひ其上注文の際又々斯る特別の益を受く。但し何れも前金送附無之に於ては、配達不仕事。

（是迄注文の向も同樣と可致候）

右廣告の通に有之候間、此切符封入の上、前金合送し、注文の諸君には、金額に應じ書籍無代にて呈上す。左れば、右廣告文を切抜き、どなたかへ、進物となされ候はば、歲暮年玉と可相成、女學雜誌の舊讀者は無代にて遺物を爲し、新讀者は無代にて書物を貰ひ受候、たゞ損をする者は弊社のみに有之候へども、必竟社運隆盛の祝ひの心持ゆへ、詮する所ろ世上花客多きの故に候、謹で諸君に謝し奉る。

發行所　**女學雜誌社**

編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三

に兎を噛殺たと云ふことです。ドウです皆さん、能うく氣を注けゐ
いと、此辺り尻り馬から、命を殞すことがあり升ぞ。

られぬ、父母と共に故國にありし頃十三歳にて小學校を終り
ね、田舎としてよき女學校の設なかりければ父は師を家に招聘

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

きて妾に漢學英學杯學ばしめぬ、妾が物覺え疾とて師も常に褒めそやし、父母にも語ればいと喜ばしげに聞き給へり、妾に弟二人あり、兄なるは妾より三歳劣り、弟は亦それより四歳少なかりき、故國を出る頃まだ二人ながら小學校に學びぬ。何れも一級の首坐を占めたりければ其學校を立去るを惜まぬ人はなかりき。

都に上りては學校も多く陋しき町、狹き道の邊まで學問敎ゆる所多く、妾父母と共に車に打のりて行き來ふ毎に都はよき所なりと思ひぬ、斯る所に長く住みたらましかは如何に博學多識の人となり得ん、如何で此處に久しく住よしもがなと稚な心に思ひ、折にふれては母上何時迄都に止り給ふぞと問へりしも屢なりき、母上は問ふ毎に妾が望む程止るべしと答へ給へり、いとうれしかりし。

父は閑雅幽靜の地を好みければ本鄕と云へる所に家を借り、日々官省に通ひぬ、都に止りて二月計り過る程に父母は妾の爲めに某女學校を撰み、入學せしめ給ひぬ、妾は漢學と數學に加へて英學も少し學び居たりければ高級に入るを得たり、家より學校までは二十町計りもありけるが好む學問の爲めなれば遠しともせざりき、始の程は車にて送られ、迎へられ、亦時に女中に送らるゝ事も有りき、斯くして十四歳の年は暮れぬ、十五歳の春、家より遠からぬあたりに一人の學友を得ぬ、妾より年二ッ長けたりければ萬づまめだちて姉上の如く見えぬ、往來の道すがら、學校に居る時まで一々心配りてよく扶け導きくれぬ。

日月過ぐる事疾く乾坤移つて止まず、早くも十七歳の春となりぬ、卒業せるは此年七月なり、今より四年の昔なり、卒業して尙學ばむと欲せしがよき學校なしとて家に止りて裁縫を學びぬ。

學校にありける時の事共思ひ出て嬉しき事あり、悲しきあり、千百の聯感綿々として絕えず、中にも思ひ出て、獨り打笑ふは結婚の事あり、ひまある毎に友人と閑話して話頭結婚の事に及べば皆曰く「妾は身を終ふるまで婚せじ、必らず婚せじ」と、十中八九は皆斯く云へり、妾も斯く云へりけるが今は既に嫁せる身とはなりぬ、之を思へば可笑けれど身の不遇を省れば轉た愁涙禁じ難し。

人獨り居るはよからずとは萬古不消の金言、素より理に違ふ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

なり、故に人幸ひなくして獨あらんには心常に打沈み、世の波風に堪えず、快活ある事なし、殊に女子に至りては獨り居らんはよからず、妾の知れる人に嫁かぬも多かり、されど皆身衰へ、心弱り、魂膽將に銷えんとする樣、よそに見るさへ哀れにも悲し。

妾の友人、既に半數嫁ぎぬ、幸なるもあれば運あしきもあり、妾が如きも亦少なからざらん、過る日一友書を寄せて世のあじきあきを喞ちぬ、妾之を慰めんと亦返し文を認めぬ、身未だ喜ばず、如何で友を慰めん、さは云へ一片同情の念、亦禁ずる能はず。

妾が未だ學校にありける時より父母告げて云ひける樣人は折よき時に嫁かずば遂に偕老の友を得じ、世に斯る恥づべき事なし、御身年既に長けたり、はや嫁ぐ心なきや、某省に職を奉ぜる官吏あり、そが一子芳紀まさに二十有餘本年某學校を卒業せりとぞ、豈好き伉儷ならずや、御身だに承諾ば約忽ちあらん、速に答へよと、妾は未だ年長けたりとて之を急ぐべき程にもあらず、學校も中途にして止めんは口惜し、こたびの御言語は承諾がたし、決して父母の命に背くとしもあけれども、固く辭みけり、父母遂に詮すべなしとや思ひけん、その事は再び云はずなりにき。

西洋には夫妻互みに約諾しつ、父母の係はる所なく、心のまゝに妻を擇み、良人を得る習ひありとか、妾學校にて常に之を聞き侍りぬ、自ら以爲らく異國の習慣なりとて利害伴あはざらんや、益多かれば從つて弊繁し、必らずしもよきならはせとはあさず、さは云へ婚儀は終生の大禮、一度相結ばゞ百年遂に共にすべし、父母の心にのみ任せはてんには如何なる良人を得ん、如何なる妻を娶らん、雲の鬢、花の顏、楊妃も色を失し、西施も面を蔽ふ程の人なりとて如何で心の程を知り得ん、さるを世の人外形のみ見て婚嫁す如何で幸ひのあるべきぞ、亦或は位階の高きを好み、あるは財寶の多きをのみ只管に求む、ヨシ位階は王公貴人を凌ぐとも之を以て幸ひを得んは難し、七珍萬寶身の外に堆くとも之を以て眞正の愛樂は購ひ得ず、此理を知らで徒らに空しき事をのみ先きとし、貴き事を省みざるは愚かなるの極のみ。

されど習慣の久しき遂に國風とはなれりけり、人見てよからぬと知らねば矯めんともせず、數千年來の舊習今に脫却せざ

るべけんや、妾徒らに異國の風俗をのみ學んとにはなけれども、我國に勝りてよき事あらんには取りて用ひなん、されば面貌の美醜を問はず、官位の高下を論ぜず、財富の多少に係らず、妾の心の望む所、意の投する人と伴なふを得ば妾の望みは足れり、山地僻落に住みて、一軒の茅屋に世を送るとも敢て辭する所にあらず、翠帳深き所、紅簾清風になびく裏、玉堂に住み、山川の美味を連ぬるとも心快からずば遂に味なけん、妾の思へる事斯の如し、望める事斯の如し、而して自ら行はんと決心せし事も亦斯くの如くありき。

ふち世定めぬ飛鳥川、變はる浮世と知りせしが、思ひきや、期せし所は水泡に歸し、望みし所は影だにもなきに至らんとは、嗚呼我心だにたのまれぬ哉、妾が學校を卒へたる翌年の事なりき、亦もや父母は妾に說きて疾く嫁すべきをすゝめぬ、されど父母は官位貴く、財寶多かるをのみ撰びて彼人はよきや、此人は如何に抔頻りに問ひ給ひぬ、妾遂に免る可からずとは知りしが、心なき人に嫁がんは後の禍ひ恐しと悟り容易くは承諾かざりき、妾が否む毎に父母は不與のおもゝちにて暫らくは打とけ玉はざりき、三度四度と折つゝくにつけ父母いよ〳〵困じはて、父はいたく醉ひて怒らせ給ひし事もあり、亦馬車に折のりて何處にか行き、歸り給はざりし夜もありけり、母上はいたく心配し給ひ父上は御身の心剛腸なるを怒らせ給ひ、よからぬ遊び抔して氣を晴らすなるべし、御身疾く承諾給ひねと、涙ながらに告げ給へり、如何に古來の風習とは云へ、聊か異國の樣も聞き知れる身の、嗚呼遂に空しく心あき人に嫁して終生を苦辛艱難の中に送り得べきか、妾もし今の世に生れ出でさらましかば斯るうき思ひはすまじきものを、母上は妾の事を憂れひ、遂に重き病ひに罹り玉ひぬ、妾病床に侍りける時目さむれば幻にて妾が父上の命に從ふべきをすゝめ、睡れば夢心に尙此事を云ひ給ひぬ、道理の絆は尙絶つべし、恩愛の情緒に至つては試に解き難し。

前 御前は今年何歳におなり？ わしがさよう生れてから今日迄何年たつか數えて下さればすぐいふことが出來ましよう。

親父が放蕩な息子に小言を云つた跡で 今日の處は勘辨してやる早く二階へでも行け 息子は平氣で 御父樣今日勘辨して下すつたように明日も勘辨なして下さいな。

ある坊都馬車にて御者の頭をつらく〳〵打眺め 御前さんは死だのち地獄へ行き度か極樂へ行き度か？ 私は極樂が望デスと御者が答ふるを聞て坊都は氣の毒げに極樂に行けば車も馬もないぞよいか地獄に行けば火の車がある御前は地獄の方がよさそうだ。

理學

炭酸氣の話

吉田伸子

炭酸氣は常に少許づゝ空中にあるものにて、皆樣がお出でなさるお座敷の中にもあります、されど此氣は、無色なる故、目には見ませぬ、又臭もありませぬ故、之を嗅ぎ出す譯にもまゐらぬものです、併し味はあります、少しく酸味があります、彼の「ラムチ」や炭酸水をお飲みなさつてご覧なさい、極淡泊な酸味があります、あれは全く此炭酸氣の味です。ご存かも知れませぬが「ラムチ」や炭酸水は、炭酸の水に溶解したるものです。又「ラムチ」の事を、長崎港邊には「ポン」水と申します、私が或時其譯を同港の人に尋ねましたら、其人の答へますには、あれは栓がポンと云ふて拔ける水なケンデ「ポン」水と云ひますと申しました、いかにも尤な義でムり升。

さて此「ラムチ」の栓がポンと云ふて拔けますのは如何なる理でムり升かと考へますに元と炭酸氣が水に溶けます分量は專ら壓力に關します、到底壓力が多き時は澤山溶け、壓力が弱くなると一旦溶解しましたものも、再び逃げ出しますものです。其れ故「ラムチ」水の壜の口を確り栓を致して置きますと、壜中の水より逃れ來る炭酸氣がありましても、壜の外に出ることが出來ませぬ、其れ故壜中に在て其の中の物を壓して居ります、此時には炭酸氣が其れ自らの力に壓されて澤山溶解して居ります。されど栓をメて居る銅線を緩るや否や、壜中の炭酸氣は彈力を逞ふして、一齊に栓を壓し除け逃れ出ます、そう致すと壓力が減じました爲に、水に溶けて居る炭酸氣は、氣泡を爲してブツゝゝ沸騰して之れも亦逃れ去ります。

炭酸氣中に燭火を入れますと、忽ち消え、動物を入れますと、直に斃死致します。これは炭酸氣が有毒物なる爲に死するのではありませぬが、動物の生活するに必要なる酸素がない爲に斃るゝのでムり升。若し炭酸氣が、有毒物なれば、「ラムチ」や、炭酸水などは、決て飲めぬ筈です、然るに「ラムチ」や、炭酸水は、有毒物ならざるのみならず、却て胃の爲には、消化作用を促す効能があります、それ故人々が食後などによく飲むのでムり升。

（あとは次號）

風船のおはなしは都合あり一寸お預りに致升。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文學

池袋清風大人批（東京案山子の屋社中）

菊

前島むつ

、咲にほふときわの垣の菊の花かざして千代の秋やへなまし

鹿

前島むつ

、さを鹿の聲のほのけく成りぬるは
倘山ふかく妻やこふらん

竹内うめ

三笠山春日の森
、さる澤の栁のかげになく鹿の聲きく時ぞ昔しこひしき

評　猿澤の池までは鹿も出て來らざるべしよしたま〳〵來るも人里なれば淋しき感情なしまして栁は春のものにて鹿さは合はぬをや

紫式部

市村

下の句ひらく
、みるたびにゆかしさまさる紫の色香こめにし花のまき〳〵

江間くめ

、しきしまの道奧までもそめはたす其紫の色のゆかしさ

秋雨

日高みつ

、山かげの庭の千草は枯れはてゝ淋しき夜半に村雨そふる

評　上句は目に見ゆるけしきなるに下半句はきく感情也かくては上下相合はず感情連續せざる也

秋夕

山口つる

小山
、秋の田のおこの稻葉風やみてもすの音絶へぬ夕くれのそら

評　おくてさは晩く穗に出るもの也穗に就てはわせさかおくてさかいふ然るに稻葉の穗にはかゝらさるべし

皇子皇女御出家の事

（折たく柴の中）　新井白石

當家の神祖天下の事を知しめされしに及びてこそ朝家にも絶たるをも繼ぎ廢れたるをも興させ給ふ御事どもはあるなれ然はあれど儲君の外は皇子皇女皆々御出家の事に於ては今も倘衰へし代の樣にかはり給はず凡そ匹夫匹婦の賤しきも子を生ては必らず其室家あらん事を思ふこれ天下古今の人の情也又今ま農工商の類だにも男には其資財を分ち女には其婚嫁を求むましてや士より以上悉とく皆然らざるはなし斯る世の習はしとなりて年久しければ朝家には今まで申させ給ふ御事こそなからめこれらの御事願はせ給ふべき所とも思はれずたとひ又朝家には申させ給ふ御事こそなからめこれらの御沙汰あからん事上につかふまつらせ給ふ所を盡されしとは申すべからず當時公家の人々家領の程もあるなれば皇子三親王の事おはしまさんにもいか程の土地をか參らせらるべき皇女御下嫁の事おはしまさんにもいか程の國財をか費やし給ふべき此國天祖の御后のかくのみおはしまさんに當家神祖の御末は常盤堅磐に榮えおはしまさん事を望まんは何如にや候ふべきされど某が申す如くあらんに是より後代々の皇子皇女其數多くおは

しまさんに至ては天下の男ものかせ給はぬ所あるべしなど申事も候はむか古より皇子皇女數十人おはしませし代もすくなからねど夫らの御後今に至り給ふは幾許もおはしまさず天地の間には大算數といふものあるなりと古の人は申たりきこれらの事は人の智力の推測るべき所にあらず只理の當否をこそ論じ申すべけれ或は又皇子の御後多らんには終には武家の御ため不利の御事ども出來ぬべきなど申す事も有べきにや高倉の宮の令旨によりて諸國の源氏の起し事もあれど是は平相國入道のひが事のみ多して家滅ぬべき時に當るなり若此等の事を以て誠にすべきにや高時入道の滅し時に令旨なされしは梨本の御坊にはおはしまさずやさらばたとひ御出家の御身といふともそれらの事あらじとは申べからず是等は只武家御政事の得失にこそかゝり給べけれ都て此等の事能々御心せさせ給べき所也と申しなり。此封事御覽の後仰下されし事再び三たびの後申所の事どもはありけれどこれ國家の大事あり能御思惟あるべしと仰下されしに、やがて今の法皇の皇子秀の宮とか申す御事親王宣旨あるべき由を申させ給たり……是等の事ども我此國に生て皇恩に報ひまゐらせし所の一事なり。

批評

撫象子

〇眞理

其第十四號開卷第一面に、丸山通一氏の「勅語及其解釋」ある一篇あり。堂々數千言、溢れ、迸ばしりて出づ、大丈夫の勇辨と云つべし。志あるもの一讀せずんばある可らず。

〇日本文學史

其下卷を一讀し彌よ之に重きを置く。內則に隨ひ、之を月一回の附錄部に廻し、彼處に於て細評すべし。

〇紅鹿子　（紅葉山人）

夏痩と關東五郎との二つを合せ、新たに題して紅鹿子と云ふ。紅葉山人の著なり。共に一と度び世に出しを更めて裝はひしものと覺ゆれど、夏痩は初めて讀みぬ。文章アッサリとしていつもの凝性を見ざれど、山人特得の工夫鍛練所々に著じるく現はる。此を以て、名文句また少なしとせず、

他人に慈悲をかくるは欲德づくにあらぬとなり、されば其報酬にはまた金錢に買はれぬ事身に廻り合せ……

震策、粹を心得、此方より打解けて見せける上、二日三日と過る間に霧霽れて富士白く、世の中にこれほど嬉しき物はなくなりぬ。

此道(戀)には後悔など云へる水臭き事はなき道理あり、後悔と云へば他聲よろしけれど、其實は秋風立ちて元木に増る末木なしとかや。

其につけても、あれほど物堅き震策が……若きものは油斷ならず、何時の間にやらそゝのかしてと、云かけしが、美代と顔見合せ……。

皆な得がたき味はひあり。要するに、夏瘦は、貞女を書き、關東五郎は俠客を寫す。一は今の世の女德、他は維新前の男氣、もろともに吾輩の感服する所ろにあらねど、舊日本普通の道德を描出するに於て、好き標本なりと云つべし。二篇を併せ覽て感うたゝ切なり。兎に角、實際を寫したる山人の技倆に至つては、先づ以て之を重しとせざる可らず。

○日本人

志賀重昂氏再たび筆を揮ふと見へたり、世上に評判の稀なるは、議場の騷々しき故なるべし。吾人は、その亞細亞東方論多きを喜こぶ。今の時に於て斯く論ずるは此雜誌のみなるべし。只だ聽く人の少なきを憾む。聽くとも只だ造大して徒らに慷慨す、衣冠一流の書生輩のみ。

○新聞流轉

啻に、國華、東洋の新たに起りたるのみにあらず、啻に大同と公論との合併し、朝野の色を變へたるのみにあらず、新聞紙の眞持主、眞主筆、日月と共に流轉して近來變化極めて頻りなり。安んぞ其論鋒の亦每度變はらずして止むべき。

○經濟雜誌

田口卯吉君歸れり、議場外に居て眞とに能く政費論を講ずるもの、今后の經濟雜誌あらずして何ものあらん。數万圓の散財吾に歸して、八百万圓の削除を彼に猶豫するの例し、亦た無にしもあらず。經濟雜誌は能く正々堂々の議論を爲し得べしと、吾人は信ず。

○嵯峨の屋主人

主人近頃の文に云く、私は固より一個の文人で、殊に遊怠文弱の文人で、不完全極まりなき文人で、自分で自分に愛相のつきて居る文人で、然し日本人です。又云く、何如にして神

に向つて近くかと云ふに、基督を師として行く積りです、何故なれば、釋迦を學んで私の結果は遁世の念願でしたから。凡そ此等の言語は、篤學好道の人にあらずんば決して吐くと能はず。道の前に尤とも低きく蹲くまるものは、人の前に尤とも高く立つ所ろの人也。

○吾婦布里　新誌子

あづまぶり第一號出づ、昔しの藝術叢誌を再たび見る心地す。一類の風流人には面白き種あるべし。

隨感

左の二章、書き人の目當は夙く過ぎつれど、今に尚ほ同じき事あるぞ口惜しけれ。則はち掲ぐ。

○謀士天下に充つ　三美郷女史

天下の名士名都に集り桃言李默、霜露既に降り、木葉枯槁の天別に春色を呈し來り、夜宴朝會、霞散雲集、孰れも胸に一物の美髯士、復た鹿鳴館裏蜂蝶嬌の舞踏會の如き無邪氣なる會合には非るなり、宴を張るの主人公、招かるゝの美髯公都て、イントリギウとイントリギウとの會合ならざるはなし、一黨中一社の中猶相許すを得ず況や黨外社外に於てをや、事を爲さんとするの士、先ず權勢を得ずんば能はず、權勢を得る謀略に富まざるべからず、而して謀略は傑士の最とも忌む處ろたれば、勢謀士を以て天下に充たすの外なかるべきか。嗚呼。

○雲鬢霞裙も亦功あるか如何

議長たらんと望むの某議員、議長選擧日最早一旬を餘さざるの切迫と爲りしより千の計、百の謀、將に講じ盡きんとす、是れもまた其の千百謀計の一なるか、兩三日前より、一日客十五人を限りて日に替りし人々を招飲し、杯盤の勞をとるもの皓齒明眸、其の數五と、これが招飲に預かるの諸士にして果して主人の酒肉に酬ゆるや如何、美食逃的の人々多かりせば啻に議長たらんとする某君の失望のみならず、これが酒肉代を辨ずるの源泉其の支流の力なきに啞然たらざるなきを得ん乎。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

笑ひ草

周公は師を知らずといふ　さよ子

人を正さんとするものは、先づ己れを正しうせよとは、古人の金言なるものから、世の中の人誰々も、これを聞きもし、いひもすれど、さてこれを、おのれ〳〵が身の上に、行ひ得ぬこそ口惜しけれ。去れば昔より今に至るまで、人を糺し、人を罪なふ職に居る判官あればとて、己れ又人に糺され、罪せらるゝ事をなさゞりしとは限らず。五欲六塵を避けて早く清浄界に入來れよと、殊勝氣に珠數爪繰りつ説く坊さんも、必しも妻子珍寶を、全く糞土と見捨たるにもあらじ、子を戒むる親、妻を諭す夫、婢僕を罵る細君、おの〳〵其身に顧みれば、何れも皆、自ら戒め、自ら諭し、自ら罵るの言葉ならざるはなからまし。左ればこそ兎角に命令行はれず、折角の教戒も全く其効しなきヿとなるにこそ、人の上に立つ人々はよくよく此邊に心せでは叶ふまじ。

何れの頃にかありけむ、無何有の郡ねむろの里といへる處に、一人の漢學先生ありけり。此先生兎角眠るヿを好み玉ひて、晝餉したゝめさせ玉へる後は更にもいはず、朝なあさな、弟子達に講義を授けらるゝ時にさへ、御首の据へ處いと危ふくて、机に御頭をしたゝか打つけ玉ふとも、屢ありけるほどに、終には一ツの常例のとく成り果て、と〳〵しげに諫るものもなかりしかど、流石に其高弟達は、先生を敬愛する心より、是をあたらしき事に思ひけむ、二人三人申合せて、一日憚らず申出ぬ。先生之れを聞て徐に、咳一咳して曰ふよう、御身等の志は誠に忝し、去ながら予が睡るは徒に睡るのみには非ず、多年弟子に道を授くる身とて、日夜聖人を憶ふて止まず、かるがゆへに間がな隙がな睡りを取りて、夢に周公に見へ以て一日もはやく道を究めんとするなり、必ず〳〵我怠りとな思ひ僻めそと、懇に諭されけるほどに、弟子達もこれには、返す詞なく唯々として退きぬ。其後一人の弟子晝寐をなし居たるを先生見付け殊の外腹立れ書生の分際で白晝睡るなどゝいふ事やある、左る怠惰者は物の用にはたゝじ、疾う〳〵起出候へと、いきまき荒く罵られけるに、弟子謹で先生の前に跪き「ハイ私も只今夢に周公に見へて居り升た處でムり升。

先生ハッと思ひしがぬからぬ顔にて、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「果して左樣ならば周公は何と曰ひしぞ、
弟子は愈々畏り、
「ハイ先づ周公に見るや否や先生の事を伺ひ升たら、周公は予は汝の所謂先生あるものと未だ曾て夢にだも相見たることなしと申され升た。

問答

細君たるものゝ姓氏の事

ふみ子

問　凡そ夫ある婦人は、多く其夫の家の姓を、用ひ居る樣に侍るが、右は如何のものにや、少しく紛はしき心地致候、願くは、御高説伺ひたし。

答　成程御尤のお尋ね、此事に就ては、私も疾くに、心付居たる事にて候、私の考にては、理論上より考へ候ても、實際の上より申候ても、里方の姓を稱ふる方、至當ならむと存候。全躰夫婦とは、婦人が男子に歸したるの謂にはあらず、一人前の男と女が、互に相扶け、相拯ふの目的を以て、一の會社を造りたる譯のものなれば、何れが主、何れが客といふ筈のものには候はず。故に隨て、夫には夫の姓氏あり、婦には婦の姓氏あるは、素より當然の事に候。左るを、日本のみならず、何れの國にても、兎角男子を主的物と見做し又其主的物たるの實あることを以て、主に夫の姓氏をのみ用ひ、いつしか、婦の名にまでも、夫の氏を冠らすこととなりしならむ。尤便宜上より申せば、一軒の家にして、二個の姓氏あるは、不都合故、其夫の姓のみを、用うるも宜しかるべけれど、其は他人より、〇〇夫人、或は〇〇御令室など、呼稱する時のことにて、自ら何々と、夫の姓氏のみ名乘るにも及ぶまじきを、一時目前の便宜の爲のみにはあらで、後世へ遺す書類までにも、往々夫家の姓を用ひらるゝ人あるは、洵に訝しき心地いたし候。西洋諸國にては、如何相成居るか、夫は一々存ぜねど、日本とても、戸籍上並に又、墓誌銘、墓表などには、全く其里方の姓を用うることと、相成居れば、强ちに理屈上より、夫家の姓を用うることと、なりたるにも非るべく、必竟は日常便宜の爲とて夫家の姓を用うることとなり居るあらむとこそ存候。左すれば、今日夫婦なるものゝ成立に就て、隨分誤解するものもある折柄、かゝることは、差閊なき限は改めて成るべく婦を夫の附屬物の樣に思はれぬ樣、改まつた書附などには、其お里方の姓を用ひられ度ことと思ひ升。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

學びの窻に故郷を憶ふて

明治女學校　鈴木げん子

或日曜日の朝例の教場に行きて只獨り心淸して物考ふる程に確にわが母の聲にて我を呼びしに違ざる樣聞えたれば頭を上げて打見れども素より然る人の有るべき筈なし啻麗かなる旭日は東の空にさし上りて植移されて昨日けふ故土を離れし庭の面の常盤木の緑葉ごしに室内を温むると啼て行く一行の鴈聲哀げに聞えて覺えず渾身冷却せしむるの外なかりし指を折り數ふれば出立の前夜父の枕邊に母の膝に打ふして別れを惜みし時母はいひぬ今年は止むを得ざる事情にて去年よりも後れて歸りたれば上京も猶暫し過してと思しを亦々心に任せざるか能く身を愛して勉め學び多くの後進をまどはすな汝が行の如何は病み給ふ父の御命を左右し得るの力あるぞよと。父はいひぬ今は何をも謂はじ歸りてより今日迄暇あるごとにいひ敎し訓だに守らば足れり只此秋よりは月の十の日を以て汝が安否を告ぐるの日と定めよ父は病の床に是のみを樂しみ待たんと然り明日は大切なる約束の日なりいろ〱事繁くて書送るべき事も別に心をとめ置かざりし昨日讀し書物の中に親の心の十分の一を子に持たしめば實に孝子といふに足れりと實に適切なる言なる哉然るにても我は己が父母に感謝す今より思へば只に都の華美なる風を慕ひ新聞紙上一流の女子の言行を喜んで學問せんとは思ひ起せし卑屈なる子の一意を枉げず能くも愛を割いて百里の遠きに出し給ひし世上幾多の親は僅に肉體を愛育したるのみにて其任を盡せりと安んずるもの多き中に多くの入費と苦勞を惜まず心長閑に勉むるをゆるし給を謝す日常些細の事だにも嚴敷感じ給ふ病の身なるをまして月三回而かも禿たる我筆は安んぞ父が心を慰むるに足らん親の心を安からしむるを孝の至りとは聞けど渇くが如く望むともいかで孝子たるを得ん然れど若し不孝の子たらざるを得るよしもがなと常に心を盡すのみ嗚呼愛深く憐に富むわが慕ふ父よ母よ傍を辭して早や一月秋暮て冬來る月日のめぐりいと速きを老のせまり來るとは思ひ給はて君が愛し給ふ愚なる小女が事成るの時近くを待ち給ひてよ。

時事

○東京府會の廢娼問題

去一日夜、小島官吾氏果して廢娼建議を提出したり。文案別册附錄に掲ぐるが如し、周密にして鬱勃、精細にして慷慨、八面玲瓏としてちとの瑕なき心地す。小島氏の立つて之を讀むや、音聲或時は悲しく、或時は烈しく、或時はむせび、或時は激し、滿塲傾聽して只管ら感歎の外なき狀あり、傍聽席には六七十名の遊廓主人固唾を飮んで溜息し、聞ゆるものは、帋上を走る速記者が鉛筆のひゞきと、文案を飜がへす帋の音の時々囂々たるのみにてありき。朗讀了る。角田眞平氏等は、もはや議論せず直ちに採決あれと勸告し、一般の光景駁論を試みんとする者は殆んど絕無の姿なりき。左れど、先づ之を問題とし、而して后ち直ちに採決せんとするに當り、如何なる調子ぞ、立んとして控へしもの、立乍ら後を顧みるもの少なしとせず。書記數を算すれば、ア、、二十六名に對する、二十三名。たゞ三名の少數にて否決したり。

○再提出

されど亦た市部會に於て議論あるべし、議長須藤時一郞氏は殊の外の遺憾とし、非常に殘念がらる。數日の后ち又々議論沸騰すべし。

○長野

同縣會の廢娼問題も、十六名に對する、十四名、たゞ二名の少數にて否決したり。

○落膽す可らず

ミルトン云はく、眞理は最后の戰勝者なり、たゞ裸體のまゝにて角力せしめよ、必らず勝たん、上帝の外か、眞理に優るほどの力あるものなしと。社會改良論者は正義の途を履み、眞理に伴隨して理想境に鋭進するものなり、何すれぞ勝たざるとあるべき、未だ全勝せずと云ふと雖ども、一歩十歩、日に〳〵進歩するにあらざるとなし。試みに見よ、近來すでに數多の成功を奏せしにあらずや。

○第一、女相撲

婦人矯風會員の建議採用せられ、直ちに營業禁止せられたり。

○第二、醜人橫行

開院式の當日賤業を營となむ婦女子（藝妓輩の類を指示せしなり）手踊を催よふし又は手古舞に扮たちて議院の門前へ繰り出し又は市街を練りあるく等の輩も之れあるやうにては不都合に付き宜ろしく注意の上說諭を加はへて差止むべしと二十七日警視總監より內訓あり。之れ兩婦人會の勸告採用せられし也。

○第三、無禮者

前號に記したる宮田淺二郎も、象潟町警察署に召出され、不心得を叱り置かる。則はち、三百の議員に向つて、一々取消詫書を送るに至る。

○可憐娘義捐

八王子靑木たけ子の來狀に云く、

……多年御希望の廢娼彌よ人の知る處ろとなり此の度は大ひなる結果現らはれ先生方御盡力のゆへと難有感謝いたし侍べる妹等は何の働らきもせず只先生樣方の御働らきに委賴いたすのみ誠とに恥づかしく存じ候何卒〳〵尊躰御大切に遊そばし尙後來一層我が社會の爲めに御働らき玉はりたく一重にねぎ上候妹事日々縫物いたし誠に少々なれど別封廢娼運動の入費に差上げ候大海の一滴も眞心よりの淚ぞと御納め祈入候……

○廢娼バザール

府下の有志婦人、及び五六女學校の有志生徒近日廢娼慈善市を開き、運動費に向つて義捐する所あらんとす。

○憤怒すべし

橫濱グランド、ホテルの客引する葡萄人ジユセガマなるもの、橫濱ステーション待合室に於て貴婦人某に無禮を加へんとしたり。憤怒無上、言語に絕す。之と云ふも、開港地に公娼などを置き、日本の婦女子を外國人に弄そばしむるの結果なりとす。同胞切に三省あられよ。

○第一騷擾會

あゝ町村會よりも八釜しく、日本從來の議會中斯く迄で騷々しきは無しと云へり。但し追々大切の問題とあれば彼等は鐵默すべし、くだらぬ事にあらずんば口を出しがたければ也。クロムエルは久しく默し、ハムプデンは最後まで劒を拔かず。吾人は鳴かず鳴けば必らず九皐に達するの大々聲を發するものの多からんとを祈る。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○女人禁制

の怪奇則は、勿論除き去られたり。

○小兒科

醫科大學の弘田長君は、小兒科專門に於て目下第一の評あり、近頃ろ同大學の中に其實驗科を設けんことを發起し、且つ貴婦人紛脂の餘料義捐を庶ひて實驗費に充てんとの計畫のよし、好き計畫と云ふべし。

○子供の失明

子供の目くらとなるは多くは幼けなき時の眼炎よりすと申す故に、米國ニウヨウクにて預防の爲め、近頃ろ法律を發布し産婆又は保姆にして初生兒産后二週間内に、眼に發炎發火したるを認めなば直ちに醫師に告ぐべし、反く者は百弗以下の罰金又は六ケ月以内の禁錮に處すとあり。

○孤兒院

痛ましく憫れむべきは孤兒なるべし。岡山孤兒院の寫眞を送られたるをつく〲と見て、此感甚はだ切なりき。又神戸にては、吉本襄氏外同志の人、此度新たに孤兒院を新設せり。

○貧民救助法

國會の第一議案として出ぬ。吾人は次號に於て論評すべし。

新誌

さよ子

●國民新聞　は去る三日の紙上に於て、民間黨の掛引と題して曰く、帝國議會の前途は、實に無數の暗礁起伏せり、故に此際一點一畫たりとも輕急躁奔の運動をなして、國民より愛憎を盡さるゝと勿れ、國民の信任を失ふ勿れ、今日民間黨は何れも、會計補則を以て違憲の法則となし、飽迄之れを、全廢せんとするものゝ如し、然れ共事物各時あり、議場の討論にも亦掛引を要せざる可らず、故に先づ問題呈出の順序を議め、民間黨は、新聞、集會、政社等の法律を改正して、其羽翼を作り、整援を募り、次に國民の信任を博すべき、地租輕減の一事を斷じ、以て四千万仝胞感謝の念を後循とし而して後、百種の問題に論及せんことを望むと論告したり

●讀賣新聞　は滿幅の經綸漏すに處なく、錦囊空しく秘策を藏して、久しく機會を待ちたる代議士諸氏、今や帝國議會の開設に際會したる事なれば、開院早々議場の囂々たるも怪しむに足られども、議會の會期は三ケ月なり、傍聽席にある撰擧人を初め、故里の知己朋友に對し、義理にも一二回の發言を爲さんとするは、無用の禮儀なり、必其會期の短きとを思ひ、一刻寸時も贅辨空論に、費す勿れと忠告せり

●時事新報　は曰く地租輕減とは、世間普通の用語なるが、所謂輕減の方法は今の政務の冗費を省きて、地租に減じたる所を、塡充せんとするものか、或は又更に新税を起して、補欲せんとするものかといふに、世の論者の主意は、蓋し政費節減に在るとなるべし。成程今の政費中には、往々冗費の廢すべきものあれば、之れを節減するとは我輩も飽くまで賛成する處なれ共、其節減したる處を移して、地租を輕減せんとするは、容易に仝意する能はずとて、地租を輕減せるも其地主こそ其恩澤に沾へ、肝腎休養の目的物たる貧賤勢力の民即ち彼の小作人に向ては、其の小作料の輕減は望むべからざれば毫も潤澤を蒙らすとなし故に地租輕減の事は斷じて民力休養の趣旨に合ふ者に非ずと論じ起せしが此篇未だ局を結ばず

●國會　にては志賀重昂氏、日本國民の最大注意を惹起すべきものと題して曰く、今や日本の政黨は、一片地方的の競爭心を中原に擔き來り、天下に呼號して、相軋轢し居れ共、優勝劣敗の大勢は、滔々として東侵し來り、我日本の四圍を繞結するに非ずや、然るに斯の如く只管目前の小得小失に齷齪し、宇内大局の趨勢に冷々淡々たるは何事ぞやと痛論し、獨立國民たるものは、宜しく眼を後來の趨勢に注ぎ以て百年の長計を企圖すべしと警告せり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

通信

○米國通信

○ウヰルソン大學　　同所留學　塚本ふじ

去る土曜日當校長エドガル君の催にて運動會開かれたり午前八時半臨時汽車に打乘り百數十人の生徒諸共に二十哩餘のアルト山に行かんとて出立致し途中にて鐵器製造場に立ち寄り種々の機械を拜見し十二時頃アルト山下の公園に着し備へられたる食卓につき種々の美食に飽き其より栗拾に熱中として出立せる組もあり校長と共に頂上なる高名の岩"Prospect Rocke"を見んとて登り行く一隊もあり候ひしが小女は頂上に登り國元なる高山に比して見ましと嶮を冒して校長に從ひ行候處案の通り得もいへぬ美景にて京都なる比叡の山を思ひ出て申候

當校にて奇妙に感じ候一事は二時より三時迄の運動時間市に行き食物を買ひ市中より歸路是を食しつゝあゆむ女生の多勢なる事に候

食事時の外他人の前にて間食する事を戒められたる日本の小女にとりては實に一驚を喫する事にて候ひき

今一例は國にありし時分承りし事なれども Chewing Gum なる物を婦人女子と へ好んで嚼む事にて非常に見苦しき事と存候

「日數學教場にて一女子口を頻に動かし居りしが教師 Aro you chewing gum, Miss Micher? 女生は赤面たり Never in the class と教師は制せられたり其の一二の問答を聞きも教場にてかす事を制せられたるのみ實に其風習の異なるには驚き申候

當校のみにはあらず一般の免るす處ならんと存候一證は汽車中にても往來にても屢々見受候然し三年生四年生中には眞に手本とすべき貴嬢多く御坐候云々

○前橋通信

通信員

上毛青年聯合會秋期會は去月廿一日をトし前橋町の桐花精絲會社樓上に於て開會したり此日來會せるもの南甘樂青年會、多胡青年會、桂萱青年會、勢多青年會、名和青年會、青年進成會、宮城青年會、赤陽青年會、蛍雪會、室田青年會、上毛青年會等の會員及び高崎伊勢崎新町其他の地方より一個人として來會せるものあり總員百十三人午後〇時廿五分一同は東京より來着せられし中島信行君の一行を停車場に迎ふ(板垣伯にも來橋の筈なれども未だ關西より歸京なくして皆臨席せられざりりしは尤も遺憾なりし)午後二時田嶋善平氏を議長席に付かしめ先つ左の二項議決したり一廢娼に就き再び縣會へ建議し併せて議員諸氏の覺見を叩く事　一帝國議會へ建議する事　次で帝國議會建議委員には在京聯合會員三名縣會建議委員には各地青年會より一名づゝ外に起草委員三名を撰定し將來の運動策に就ては各部內に演說會をひらき直接には議員を訪ふて勸告する等數項を議了したり。

女報

●廢娼建議　名古屋の新聞記者小室重弘氏其他の有志者は去る廿八日愛知縣會へ廢娼の建議をなしたり

●宮崎產婆講究會　仝會は十月十一日公立宮崎町病院に於て開會し病院長伊藤綠氏は櫻井氏の產婆論に依り懇切に教授せられ縣廳よりは衞生課員今橋重亮氏仝隈屋利哉氏臨席せられたるよし

●靜岡製糸場　靜岡市舊城內の製糸會社にては工女數十名に寄宿を許し每日曜日靜岡美以教會の教師小林光泰氏に修身講義を乞ひ工女に聽聞させ居るよし

●產婆及第者　先頃京都にて執行したる產婆試驗の受驗者十六名の內合格者は十名なりしと

●幌札婦人慈善會　にては去月上旬其事業擴張資募集の爲め仝所偕樂關にて物品賣捌會を開きたるに賣上代金并に寄附金共收入凡三百四五十圓あり參會者は四百有餘名なりしと

●女教員の數　近頃報告せられたるプロシヤ國統計表によれば同國女教員の數は輿論に反し年々增加せり

紀元千八六一年　千七百七十二人　同　千八六四年　二千〇十六人
同　千八七五年　三千三百八十一人　同　千八八六年　四千五百三十六人
同　千八九〇年　六千八百四十八人　中舊教徒　四千二百卅三人
新教徒　二千五百五十一人　ユダヤ教徒　五十三人　他教徒　十一人

以上は公立校のみなれとも公私兩校女教員總計一万二千人男教員七万三千八百卌人なりと

●國東禁酒會　大分縣東國東郡小原村にある仝會は今度其會則を改正し幻燈部書籍部の二門を置き愈其會の擴張を計るよし

週報

官令　一日參謀本部條例中改正の件并に監軍部條例中改正の件裁可公布せらる

宮廷　廿九日天皇陛下上下兩院の開院式に臨ませらる●三十日皇太子殿下上野公園美術會へ行啓●

教育　廿九日東京音樂校にて帝國議會開院式祝賀音樂會を擧行す

政治　廿九日帝國議會開かる●一日上下兩院議長參內●二日大成會總會を開く●二日衆議院委員定まる

雜報　廿八日江湖新聞解停さる●一日小島官吾氏東京府會へ廢娼議案差出●廿七日存娼會壯士神奈川縣會議場を騷がす●廿九日開院式行幸の際山形市三郎といへる者不敬の語を放ち引致さる●廿八日朝野新聞社員犬養毅尾崎行雄等九氏袂を連れて退社す●卅日横須賀町大火●一日東洋新報發兌

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

統計

●學校、生徒

日本中の小學校は二万五千五百三十あり。○小學校の敎員は、男、五万四千五百五十五人。女、二千二百八十一人で、合せ五万六千八百三十六人。生徒は、男が百九十一万三千〇九十四人、女が八十万〇二百九十七人で、合はせて、二百七十一万三千三百九十一人。最近に卒業したものは、男が十五万千三百四十四人、女が三万七千百九十五人、合せて十八万八千五百三十九人です。

●銀行

日本中の銀行は、總計百三十八で、其元手は六千万圓餘です。

●手帋の數

明治二十年の調べに、一ヶ年中、手帋の數は五千〇九十五万五千九百七十本で、端書は五千五百六十二万七千五百九十五枚です。兩つ合すれば、一億〇六千五百万本余となりますから、平均日本人は一年に二本半ほどづゝ便をする譯です。

●日本人の借金

日本人は借金の無いものはない、已は無いと言ふても國民としての借金がある。只今、政府が借りて居る內國外國への借金即はち國債は、三億万圓ほどある、之を四千万の頭數に割ると、一人に付き七圓五十錢づゝの借金です。男斗りに割ると、十五圓の借金です。二十歲以上の男斗りに割ると一人で二十七八圓づゝの借金です。六十以上の老人を除いたら、男一人で四五十圓になりませう。之は日本人銘々の借金です、但し男斗りに任せて女は構はぬと云ふ勘定では有ません、男女一家を持つと見て、一つ身代の借金は斯の如しです。

品名	十二月三日
白米小賣(一円ニ付) 一等米	一斗〇升一合
二等米	一、〇七
三等米	一、一〇
四等米	一、一七
五等米	一、二二
正米(一円ニ付) 肥前米	一斗三升八合
越後米	一、四九
尾張米	一、四〇
美濃米	一、四六
忍領米	一、四四
雜穀(一円ニ付) 本貫大麥	二斗四升五合
上州小麥	一、七五
梅澤大豆	二、二〇
青柳大豆	二、〇五
吟小豆	一、四三
白胡麻	一、二三
黒胡麻	一、五五
鹽(一円ニ付) 赤穂	三、一二
大鹽	三、二〇
本齋	五、三〇
醤油(一円ニ付) 最上	〇、七七
極上	〇、九一
上	一、三〇
中	一、七〇
下	二、二〇
製茶(一貫目ニ付) 山城江州稀頭	二円、四〇〇
同大頭	一、八七〇
同小頭	一、五七〇
狹山稀頭	一、七二〇
同大頭	一、四〇〇

品名	十二月四日
水油(一石ニ付) 地水油	八円、三〇
胡麻油	一〇、〇〇
荏油	一〇、三五
桐油	六、九〇
綿油	八、〇〇
石油(一箱ニ付) チヤスタ	一円、七〇
ホーキ	一、七三
デボース	一、七〇
ロシヤ	一、六五
炭(一円ニ付) 伊豆上物	四、六〇
同次物	五、〇〇
同下物	六、五〇
淺上	三、八〇
同次	四、三〇
新宮丸備上	二、二〇
同角備上	三、〇〇
薪(一円ニ付) 鹿島堅木上	五〇束
同並	六二
雜木上	八〇
同並	九五
曾根大束	二五
生糸(一円ニ付) 長濱糸上物	二八〇円、〇〇
同駒物	二六五、〇〇
若州糸駒物	二六〇、〇〇
越前糸上	三八〇、〇〇
同中	二六五、〇〇
同下	二四五、〇〇
八王子島田駒	二八〇、〇〇
奥州玉糸折姫	一八五、〇〇
同竹綿	一六五、〇〇
同錦綿	一五五、〇〇

品名	十二月三日
眞綿(一個ニ付) 飛無銘	一一〇円、〇〇
並無銘	一〇五、〇〇
上入金	一一五、〇〇
並入金	一一〇、〇〇
繰綿(一円ニ付) 坂上銘大入	貫七百九十目
京丹大入	八〇〇
三州上銘大入	八二〇
尾州文庫入	九一〇
地綿文庫入	九〇五
新同泰生	二、一五〇
毛糸(百斤ニ付) 鶴判上	一〇五円、〇〇
同染分	一〇五、〇〇
同中細	一二〇、〇〇
同極細	一二〇、〇〇
最上スコッチ	一四五、〇〇
靴下用極上	一二五、〇〇
木綿(一円ニ付) 三州玉鶴	三反三分五厘
同綾鶴	三、六五
日ノ出鶴	三、九五
若柳	三、〇三
白梅	三、八〇
間銘	三、六〇
乾海苔(百枚ニ付) 洲崎極上々	九〇〇
同上	七〇〇
同中	五五〇
大森上々	六五〇
同上	五〇〇
同中	三五〇
同下	二〇〇
深川極上々	九〇〇
同上々	六五〇

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

理化學的應用實効

三能

色を白くするしやぼん

定價一個十錢より

○抑此しやぼんは第一身躰の色を白くし。御顔の艶を出し。第二肌のしみ又はにきびそばかすをとり。第三種々のふきでものゝ毒を消すべき大効あり。故に名づけて三能しやぼんと云ふ。常に御用ひなされ候へば色を白くすること雪をも欺むく計りにして。性來色黒き肌。又は何となく色悪しき肌の御方始め自然に出來たる肌のしみ腫物の跡に至る迄御用ひあさるうち知らずしらず消えて艶美なる御肌になること疑なし。殊に諸傳染病の看病人なども常に之れを用ひ身躰を洗ひなば其感染を防ぐことを受合あり御試用の上眞に三能しやぼんの名に背かざるを知り賜へかし。

●みづむし●糸かせ●いんきんたむしは常に御用ひなされ候得ばしぜんになをります。

製造人　西條重兵衛　倘くはしくは本能書にあり。

發賣元　東京銀坐一丁目　佐々木玄兵衛

特約販賣所

日本橋區通二　小間物店　柳屋
同村松町　寳丹水　岩濵長藏
同兩國廣小路　五臓圓本舖　大木口哲
同瀬戸物町　藥種問屋　玉置金八
同元大坂町　清婦湯本舖　高木與兵衛
同上槇町　萬金籽本舖　安川榮次郎
同馬喰町一丁目　小町水　平尾贊平
同本石町二丁目　十軒店　森谷萬次郎
同横山町一丁目　洋物店　桐谷商店
同同町　小間物問屋　近江屋源七
同坂本町角　賣藥店　德田多助
同新右衞門町　賣藥店　はたや
同親父橋角　芳町　堺試助
同通一丁目　木原店　席亭向　丸屋れこ
同芝區神明島居内　藥舖　岩本新兵衛
麻布區飯倉三丁目　洋物店　宮島
同六本木町　洋物小間物店　木村屋
同長坂町　保玉散本舖　堀井
赤坂區一ツ木町角　洋物　小間物店　松下
同同町　洋物小間物店　和泉屋
四ツ谷區傳馬町　小間物問屋　山形屋
同十三丁目　藥舖　河合治兵衛
同大通角　小間物紙店　相模屋
麹町區麹町三丁目　藥舖　田部重兵衛
同同町　小間物店　藤田屋
同三番町　藥舖　雨宮藤吉
小石川諏訪町　一等散本家　花樂堂
本郷區眞砂町　藥舖　尾澤若生堂
下谷池の端仲町　寳丹本舖　守田
同外神田富松町　寳丹支店　長尾
同天神町一丁目　寳丹支店　柳澤
同車坂町　櫻香油本家　堺屋重兵衛
淺草區駒形町　小間物店　中島屋百助
同黒船町　藥屋　洗粉本家　梅素亭
同西三筋町角　小間物店　亀屋淺吉
同公園凌雲閣五階　月出品　岩涙
同新畑町一番地　子宮玉本舖　清水
神田區柳原通富松町　寳丹支店　伴
同小川町銀杏木前　藥舖　笠井資生堂
同五十稲荷前　藥舖　知新堂
同同所入口角　洋物店　信盛堂
同錦町一丁目　小間物店　西野小平

右の外藥舖賣藥舖和洋小間物店にて御購求御試用の程願上候。

京橋區銀座二丁目　岸田吟香
同三丁目　萬金丹本舖　⑧藥店
同南傳馬町一丁目　伊勢屋藤兵衛
同竹川町角　小間物店　丸屋松五郎
同八丁堀大通　小間物店　和泉屋
同元數寄屋町三丁目　藥店　結城屋
同築地二丁目　賣藥店　近藤宗兵衛
同入船町四丁目角　烟草店　橋本均一
芝區芝口一丁目十五番地　はしや
同櫻田伏見町角　小間紙店　豐田屋
同久保町交番所角　大羮堂
同佐久間町一丁目角　紙店　服部
櫻川町　藥舖　保生堂
同西ノ久保登手町　藥舖　山崎日進堂
同櫻田備前町毛利邸前　藥舖　梅田
同洽集舘内　紙石鹸店　松壽堂
同表神保町二番地　藥舖　救生堂
同同　洋物小間物店　享榮堂
同南神保町　化粧品事賣店　おきなや
同一ツ橋通町七番地　北信堂
同同八番地　橋本吉助
同淡路町二丁目　藥舖　眞壁
同猿樂町一　郵便取扱所　吉村
同鍋町大通　藥舖　中澤條助
同同町大木町　店　齋藤辰造
品川宿停車場構内　洋物店　淺子
品川宿　洋物小間物店　相川
●横濵尾上町四丁目　藥舖　鈴木
●同賑町一丁目　賣藥店　里見亭太郎
●同伊勢崎町　洋物店　小池金次郎
●同太田町四　毛糸編物所　山田
●同境町　洋物小間物店　近榮
●同野毛町一　小間物店　吉岡
●同辨天通四丁目角　信濃屋
●北海道函舘末廣町　小間物店　新田
●横須賀旭町表門前　豐平屋
●同汐入町　賣藥店　山本賀平
●同大瀧町　洋物店　松本源次郎
●相州大磯茶屋町　三宅藤兵衛
●同小田原町緣町　諸色小間物店　油久
●静岡紺屋町　日上部源七
●甲府肴町　藥舖　村田屋七右衛門
●仙台大町四丁目　高橋藤七

に取次差出有之候に付御最寄

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

明治廿四年 當用日記

定價金三十五錢
郵稅八錢

懷中日記

定價金八錢五厘
郵稅二錢

十二月一日發賣

當用日記ハ佛國ノ新日記簿ニ倣ヒ年々印刷局ニ於テ編纂セラレシガ今般弊店ニ於テ引續印行仕候間何卒倍舊御愛顧ノ程伏テ奉願候、當用日記ハ來ル廿四年一月ヨリ十二月ニ至ル日々ノ記事會計等ヲ記載スルガ爲各適當ノ區畫ヲ設ケタリ又日表ノ旁ラニ附記スルニ干支七曜及新古雜錄ヲ以テシ且附錄ニハ諸法令其他日常樞要ノ件ヲ掲載セリ又懷中日記ハ附錄無之ノミニテ總テ當用日記同樣ニ有之候何人ニヨラズ必ズ坐右ニ闕クヘカラサルノ日記也

○印刷局製造印肉類其他品々

印刷局製造品賣捌所
洋式帳簿製造幷ニ販賣所
東京々橋區銀座一丁目九番地

中屋喜一

クリスマス

最良の遣物用

クリスマスも既に近くなり、正月も早や遠からず、子供衆又は家内にて樂しみに讀む面白き書物を作らんとて、左の味ひ深き教訓のおはなしを出版す。

一册七錢　郵稅二錢
十册　一割引
五十册以上　二割引
百册以上　二割半引

子供が讀みて面白く、御婦人が讀みて爲にあり、哲學者が讀みて感服する趣向なり。繪は彩色にて、文章は流麗九を轉ずるが如し。遣物には最上なり。

東京市麴町區下六番町六番地

女學雜誌社

東京

廢娼運動費募集廣告

廢娼の急務たるとは今更に辨ずるを待たず。社會の改良此に淵源し、公共の風儀此より改まり、青年の志氣之が爲めに奮ひ、教育の淸潔之が爲めに固く、女學の進歩此に依りて健やかならん。ゆえに廢娼の一日後るゝは、國家大計の成立一日後るゝなり、四民さもに慟哭痛歎する所ろなかる可らず。吾輩此に慨し、曩に東京廢娼會に加盟し、只管ら運動に助勢しぬ。其力足らざるに非ず、資に乏しきを歎くのみ。今玆に、帝國議會開け、志士雲の如く集まり、府下の景勢大に勃隆せんとす。吾輩廢娼上の運動も亦頗る煩ならざるを得ず、爲めに資を要すると少しとせず。仰ぎ願ふらくは四方同志の諸君、切に吾輩の微志を察し、其運動費の幾分を助捐し、以て此の急緊切要の孤業をして、速かに成効就了せしめんとの道の爲めに敢て四方に請ふ。

小則

一　義捐金は下六番町六番地女學雜誌社にて取次ぎ、東京廢娼會へ轉送し、同會の運動費に合用せしむ。

二　義捐の姓名及金數は、女學雜誌日本評論、福音週報、基督教新聞に於て廣告す。廣告は受取證に代ゆ。

三　運動費募集の會計、及び運動費使用途の報告は時々四雜誌に於て同樣廣告すべし。

右運動費募集發起人總代（イロハ別）

巖本善治　渡瀨寅二郎　田井正一　小島官吉　島田三郎
飯野吉三郎　濱邊泰　根本正　木村熊二　平岩愃保
星野光太　金谷昭　中濱東一郎　木村駿吉　森林太郎
德富猪一郎　横井時雄　植村正久　湯淺二郎
大西祝　田村直臣　植木枝盛　三宅雄二郎

伊東洋二郎先生著

增訂三版　通俗經濟繪入　日用家事要法　男女必讀有益寶典

●洋裝美製本●凡三百ページ●實價參拾錢●郵稅八錢

夫れ貧乏より金持と成り金持の益々金持と成る所以の原因は家事經濟の理を知るに在り本書は則其實際に活用すへき家事濟に關する事を專一に蒐集し之に圖畫を加へ且つかな附にしたる者にあれば婦人方には極めて分り易きのみならず苟も一家を堅固にし富貴を子孫に傳へんと欲せば何人に限らず毎に座右に置て熟讀して可也

目錄◎第一章　總論●家事要旨●時間●勞力●金錢之出入●衣服●食物●住居●家事結論◎第二章　一家の組織弁制度●一家の現則●旦那の心得●女房の心得●家內規則の大旨○家內の禮義○家內の制限○家內の法度○勉強と儉約○交際◎第三章　一家の經濟●家事經濟の學問●家事經濟學の方法●買物の心得七件○書類の保存○小遣帳と金錢出入帳◎第四章　禮式●女禮式○酒掃應對の禮三件○坐作進退の禮十四件○授受捧呈の禮二件○冠婚葬祭の二件○飲食の禮十六件○宴會の禮○父母舅姑夫に對する禮◎第五章　煮焚の心得●飯の炊き方●煮物の法●炙り物の法●漬物の法●味噌の製法●濱納豆の製法●干醤の製法●阿彌陀味噌製法●時雨味噌製法●常盤味噌製法●じんだ味噌製法●菓子の製法○赤小豆の煮方●饅頭皮の製法○極上製餡の煉り方○薯蒻饅頭の製法○葛饅頭の製法○カステイラ製法○煉羊羹の製法○鹽竈の製法○村時雨の製法○寒晒白玉粉の製法◎第六章　料理割烹●日本料理の仕方○四季及雑の部●西洋料理法十三件○パンの製法●食物撰み方心得◎第七章　食物を貯る方法●肉類を貯ふ法●餅を貯へ置く法●煮物を貯ふ法●葡萄を貯ふ法●菓物類の貯へ方●野菜物を貯ふ法◎第八章　世帯の心得●世帯の始末●ランプ取扱の心得●家內火の元廻の心得附五ケ條の用心法●障子の張方●飯の餘りし時の心得●鍋釜の取扱方●勝手諸道具の取扱方十三件●履物雨傘の扱方●到來物有し時の心得●進物をする時の心得●日用記臆簿の事●各國度量衡の名稱◎第九章　洗濯物の心得六件●西洋洗濯法◎第十章　裁縫の心得十件●洋服裁縫の心得●ミシン器械◎第十一章　編物の心得十件◎第十二章　化粧の心得●化粧の仕方六件◎第十三章　四季用文往復十六章●女用文往復廿五章◎第十四章　和歌の心得●和歌の作り方●てにはの事●冠辭の事●かなづかいの事●和歌の組立法●ことばの整へ方●和歌の法●やまと詞◎第十五章　插花の心得●插花の種類●花木の取扱方◎第十六章　琴三味線の心得◎第十七章　家內の衛生●婦女衛生の心得●氣絕したる時の手當及手當十二件●看病の心得●病室の空氣●病室の光線●病室の備品●病室の靜肅●病室掃除●病人の醫藥●病人の食物●病氣をせぬ心得●浴水法○呼吸法○空氣の大切なる事○草木○空氣のきたなき場所○夜具布團○便所●家內運動法○家內運動の要領○家內運動の方法○家內運動の利益◎第十八章　生命保險の心得及効用七件◎第十九章　家內銘々貯金法●家內銘々貯金の心得●銘々貯金の仕方●銘々貯金を混淆すまじき事●貯金を銀行に預け方◎第二十章　養蠶及桑木●養蠶の心得手種八件○繭の撰み方○繭の養方○繰糸の煮方○眞綿○蠶卵紙の製造の法○蠶室○蠶室の道具○蠶病○養蠶日誌○桑木の培養法九件◎第二十一章　家內の農業●家內農業の心得●密柑○養家法○養鷄法七件○林檎○葡萄の栽培法○葡萄棚○剪刀の入方五件○桐木の事○葱○蘭葱○韮○山淑◎

（以下略）

出版發賣所

名古屋本町通鐵砲町二丁目

美濃屋 靜觀堂　三輪文次郎

大賣捌所

●東京○通三、丸善○銀座四、博聞社○通一、大倉○通三、小林○通四、金櫻堂○本石二、上田屋○大傳馬二、長島○淺草三好、大川屋○本郷二、明文堂●横濱○丸善○廣集堂○黒見、大坂○梅原○青木●靜岡○廣瀨●沼津○蘭契社●掛川○三原屋●袋井○明治舍●甲府○柳正堂●上總東金○多田屋●水戸○川又●仙臺○高藤○佐勘●山形○五十嵐●秋田○本間●函館○魁文社●長野○西澤●長岡○目黒●水原○西村●鴻の巣●長島

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●正教新報 第貳百四十號十二月一日發行○壹冊郵税共金四錢五厘

目録

主教尼闊賴師讚辭○帝國議會の開會を祝しつゝ吾人の所感と希望とを述ぶ○帝國議會の開設を祝し合せて日本今後の國是を論ず○其他

大附録

護花籬 籬闘廻文詩六百四十言 朱摺菊花輪廓金摺

發行所 東京神田區北甲賀町十三番地 愛々社

各教會愛兄姉に告ぐ

新榮教會員にして最も老實の聞へある島田彌十郎氏(府下本所區林町貳丁目七十二番地居住)は今回各派キリスト教信徒求婚者の爲め彼我の間たに立ち之を紹介するの勞を採らるゝ由故に結縁を求めらるゝ諸兄姉方は速に同氏へ御相談なされたし其結果は單に便利上耳ならず一家を平和にし及び神の教會を堅固にする要素にして實に信者互の幸福と確信仕候依て此旨廣く御傳へ申上度切望の餘り茲に連署を以て申述候以上

但御都合次第郵便にて御申込あらば同氏方より出向き親しく御相談に預る由に御座候

明治廿三年十二月

贊成者 新榮教會員 高坂駒重

贊成者 聖保羅教會員 笛木角太郎

贊成者 兩國教會員 切替朝諧

贊成者 明星教會員 中川和兵衛

加減順氣散(かげんじゅんきさん)

定價四錢五厘 振出しぐすり

上婦人血の道子宮より發る的痛男女四季感冒頭痛其他は包書に委し

本家 東京日本橋區通一丁目 須原屋 北畠茂兵衛

●○脚氣患者諸君よ左の○● 廣告を讀んで世に名灸有るを知り玉はんことを

●官許專門 天下無比 かつけ根切灸點術●

附言 輕症は一二度如何なる重病と雖ども四五度限り全治受合

○灸治効能男女を論せずかつけは勿論腰より下の冷て痛む病に大効ある事受合論より證據實驗あれ○當時拙家近邊に類似の家號名乘る同業者出來たるに付番地家號篤と御注意の上陸續御來車あれ

京橋區本材木町三丁目二十一番地松屋橋通り 壽福堂

發行所 東京市麹町區下六番町六番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治

印刷人 堀口庄三

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY